

「熊本に戦争と平和のミュージアム設立を呼びかける会」趣意書（案）

2020年8月、アジア・太平洋戦争が終ってから、平和なときが75年続きました。

今や戦争は遠いものとなり、日本の社会全体が過去の戦争のことを忘れ去ろうとしています。戦争体験者は国民の2割をきり、ご遺族の方々も高齢化しており、平和な社会と繁栄の時代への出発点となったさきの大戦の記憶が薄れつつあります。

わが国は国策としてアジア・太平洋の各地に戦線を拡大し、熊本では第六師団を中心に中国大陸やフィリピン・南方の島々で戦い、数万ともいわれる将兵の遺骨が今も眠っています。そのことにより、多くの国々に多大な迷惑もかけました。更には、県下各地は度重なる空襲で甚大な被害を受け、多くの命が失われました。この戦争の実相と愚かさ、戦争が残した計り知れない教訓を、次の世代の子どもたちに伝えることは、いまに生きる私たちの責務であると思います。それは、戦争で亡くなった方々への鎮魂であるとともに、再び日本国を国外で戦争する国にしないように、また私たちが戦争の惨禍を引き起こさないようにし、次の時代に向け平和の礎を築くことでもあります。

いま全国各地で、戦争に関する資料の収集・保存・展示と平和研究のための施設が開設され、市民活動としての新たな平和活動が進んでいます。愛知県にはNPO法人が設立した「ピースあいち」と公設資料館である「愛知・名古屋 戦争に関する資料館」が連携し、平和希求の活動を広げています。岡山市では「岡山空襲展示室」が、市民グループの活動を基に貴重な空襲資料の展示・啓発活動を行い、北九州市では新たに市民の戦争体験や当時の暮らしを物語る資料などを保存・継承していく施設として「(仮称)平和資料館」の建設が進められています。

熊本は、明治十年の西南戦争を経験し、そこから生まれた博愛社はその後の「日本赤十字社」の創設に関わった平和活動発祥の地です。県内では戦争に関する資料が多く残され、その収集や戦争体験の伝承活動もなされています。市民グループによる「菊池飛行場ミュージアム」や「荒尾二造平和資料館」が相次いで設立され、錦町では「人吉海軍航空基地資料館」が開館しました。

今、県都熊本市に、戦争体験を次の世代に伝え、戦争の悲惨さや平和の大切さ、命の尊さについて学ぶ常設の施設設立が強く望まれます。

そこで私たちは、「くまもと戦争と平和ミュージアム(仮称)」設立を県民、熊本市民の方々に呼びかけます。そして熊本県、熊本市には、その設立にむけて支援をお願いします。

目指す三つの姿はつぎのとおりです。

- (1) 熊本空襲を調査・記録し、保存し、未来に継承する場とする！
- (2) 熊本の戦争の歴史とその遺産に学び、戦争犠牲者に対する追悼・祈念の場とする！
- (3) 次の世代が、命の尊さ、平和の大切さを学び、ヒトに伝える場とする！

いま国連が提唱するSDGsの16項目「平和と公正をすべての人に」に示す、世界の平和に向けて、持続可能な社会の実現を進め、熊本市内に「戦争と平和のミュージアム」設立を呼びかけます。県・市をはじめ行政はもとより政・財・官・学・民にこぞって、ご賛同をもとに熊本の未来平和のための礎を築きたいと願ってやみません。

令和2(2020)年〇月〇日

熊本に戦争と平和のミュージアム設立を呼びかける会

呼びかけ人(五十音順) ○○ ○○(熊本○○株式会社代表取締役)